

# スポーツ川越

発行 川越市体育協会



第19回 川越ウォークソン大会写真コンテスト最優秀作品  
「蔵町に行くウォーキング」(小川幸義さん撮影)

## 二十一世紀のスポーツを展望する

副会長 栗田 博

スポーツは、われわれ人間の「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生き甲斐のある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つです。

二十一世紀を迎え、高度情報化、国際化、少子高齢化などの急激な社会変革は、私たちの生活様式を著しく変化させています。生活の利便化・社会の複雑化等により、身体活動の機会が大幅に減少するなかで、人間関係の希薄化などの社会現象を生み出し、精神的ストレスを増大させるなど、心身に及ぼす影響も大きくなってきました。

今年度を実施した川越市のスポーツに関する市民意識調査からみると、「週に、ほとんどなにもしていない」と回答した市民が56%に達し、一方、運動やスポーツをする理由では、「健康・体力づくり」「運動不足・ストレス解消」「友人・仲間との交流」を挙げていることから、こうした現状を裏付けています。

川越市では、地域・年齢・性別・障害の有無にかかわらず、市民一人ひとりがそれぞれのライフステージにおいて、生涯にわたりスポーツライフを楽しむことができる「生涯スポーツ社会」を実現していくことが重要課題の一つです。そのためには、市民一人ひとりが気軽に参加できる地域スポーツ・レクリエーション活動の場や機会の拡充、スポーツ指導者の養成等が急務になっていきます。

川越市体育協会には、平成十六年度の埼玉国体に向けた競技スポーツの発展と、地域スポーツ指導者の養成など、川越市のスポーツ振興に向け、大きな役割を果たすことが求められています。

# 「川越市生涯スポーツ振興計画」の概要

## 一、計画策定の趣旨

二十一世紀を迎え、近年、自由時間の増大、少子高齢化の到来、情報化や国際化の進展、都市化や生活の利便化などの社会環境の変化はライフスタイルに急激な変化をもたらし、身体活動の機会や場を減少させると同時に、精神的なストレスを増大させ、心身の健康に影響を与えています。

川越市においては、高齢化率十二・四パーセントと今や高齢化社会を迎えており、平成十六年になると高齢化率十四・八パーセントと推計されます。

このような中で、健康や体力を保持・増進し、生涯にわたって明るく豊かな生活を送るためには、身近な地域においてスポーツを気軽に親しむことができる環境を整備し、市民一人ひとりが日常生活の中にスポーツを取り入れることができる生涯スポーツ社会を実現していくことが重要であると考えます。

川越市では、市民の誰もが生涯の各時期に、それぞれの健康や体力・目的に応じて、いつでも、どこでも、気軽に取り組み、楽しめる生涯スポーツ社会の実現を目指し、各種スポーツ大会等を開催

し、また各種スポーツ団体等の支援に努めるとともに、スポーツ・レクリエーション施設の整備を図り、市民に活力と感動をもたらす競技スポーツの振興に努めております。

また、平成十六年に開催いたします第五九回国民体育大会において川越市は四競技種目(ゴルフ・サッカー・バレーボール・高等学校野球)の会場地になります。これを契機として市民がスポーツ観戦することにより、スポーツに対する気運も高まってくるものと考えられます。また、市民自らが健康の糧としてスポーツを実践する機会も増えるものと思われま

す。これらのことを踏まえ、スポーツを取り入れた二十一世紀の豊かなスポーツライフを実現するための諸施策を総合的かつ計画的に進めるため『川越市生涯スポーツ振興計画』を策定しました。

## 二、計画の二本柱

(1) スポーツ・レクリエーション活動の充実

①健康の保持・増進と体力の維持向上

市民が生涯にわたって健康で充実した生活を送るためには、幼児・児童生徒の時期から高齢期まで

の生涯各時期に家庭・地域社会・学校・職場などの様々な生活の場を通じ、年齢・体力等に応じて心と体のバランスのとれた健康の保持増進をはかる。

②地域のスポーツ・レクリエーション活動の充実

日常生活の身体活動の機会や場の減少、生活水準の向上、自由時間の増大などの社会環境の変化、また価値観やライフスタイルが多様化するなかで、身近な地域で気軽にスポーツに親しみ、また継続して楽しむことができる環境づくりに推進する。

③学校体育・スポーツ活動の充実

近年、日常生活の身体活動の機会の減少などにより、児童生徒の体力や運動能力の低下傾向がみられ、また中学・高校の運動部活動は、少子化や教員数の減少、教員の高齢化などにより縮小傾向がみられる中で、子どもの心身の健全な発達や自主的なスポーツ活動を促し、生涯にわたりスポーツに親しむための基礎を築く。

④競技スポーツの充実

素質のある選手を適切に発掘することが重要であるため、ジュニアの時期から一貫した指導を行い、スポーツ適性・能力を総合的に発見する仕組みを確立する。

## 計画の構成

名称	理念	柱	施策の目標	主要施策
川越市生涯スポーツ振興計画	豊かなスポーツライフの実現をめざして	スポーツ・レクリエーション活動の充実	健康の保持・増進と体力の維持向上	1. 幼児の遊びや運動機会の充実 2. 少年少女の体力向上 3. 体力診断等の推進 4. 健康・体力相談の充実
			地域のスポーツ・レクリエーション活動の充実	1. 総合型地域スポーツクラブの設置・育成 2. 各種スポーツの普及・啓発 3. 各種スポーツ教室等の開催 4. 各種スポーツ大会等の開催 5. 観戦スポーツの機会の提供 6. スポーツを通じての国際化 7. 高齢者・障害者のスポーツ活動の促進 8. スポーツ少年団等の充実 9. 自然を活かした野外活動の充実
			学校体育・スポーツ活動の充実	1. 体育授業の充実 2. 運動部活動の充実
			競技スポーツの充実	1. 各団体の競技力の向上 2. 各種スポーツ団体の育成・支援 3. スポーツ指導者の養成・活用
基礎の整備			埼玉団体の推進	1. 実習者等の増進 2. 市民運動の推進 3. スポーツボランティア制度の構築・組織化 4. 競技会場の整備・充実
			推進体制の整備・充実	1. 地域と学校の連携 2. スポーツ情報のネットワーク化 3. 各スポーツ団体の充実 4. 福祉関係団体との連携 5. スポーツ・レクリエーション施設の整備・活用 6. 民間スポーツ施設との連携協力 7. 法人化 (NPO) への支援
			施設の整備・充実	1. 既存施設の整備、バリアフリー化の促進 2. 施設の効率的活用 3. 学校体育施設の効率的活用 4. 余裕教室の活用 5. 地域スポーツ施設等の整備と充実

⑤埼玉団体の推進

平成十六年第五九回国民体育大会開催に向けて、関係機関・団体との密接な連携のもとに、大会運営に万全を期すために、市民各界、各層からなる実行委

員会を組織し、市民の総力をあげて開催準備につとめ、全国から集う人々を温かく迎えるため市民の意識の高揚を図り、市民一体となった運動を推進する。

(2) 基礎の整備

①推進体制の整備・充実

スポーツや健康づくりなどに関係する施策が、各担当部署で横断的に実施されている事業を全庁的な取り組みとして連携、協力してスポーツ行政が推進できるようにする。

②施設の整備・充実

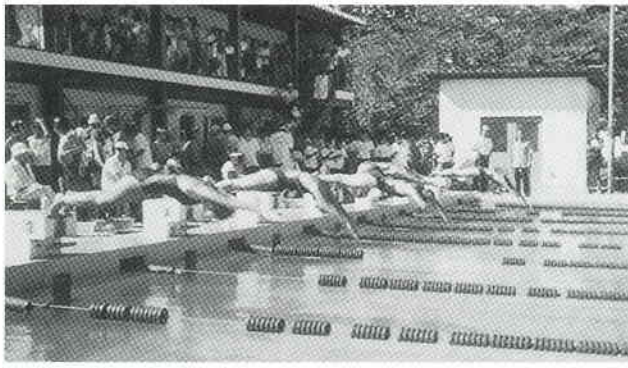
市民が気軽に地域でスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりを計画的に推進し、(注)PFIによるスポーツ施設の新設を含め、既存スポーツ施設の整備・改善を図る。

(注) PFI (Private Finance Initiative) の略) 公共部門が実施していた社会資本整備を民間の資金・技術・経営能力を活用し、効率的に建設・運営しようとする手法。

以上のように、本計画は、市民一人ひとりが、いつでも、どこでも気軽にスポーツに親しむことができるような環境を整備し、日常生活のなかにスポーツを取り入れた、健康で活力にあふれる、そんなスポーツライフの実現をめざした、理念をもとに策定、推進されるものであります。

# 水泳協会

昭和二十三年に川越遊泳協会から川越水泳協会へと名称を変更し、その時に応じた活動を今日まで連続と続けてまいりました。そして世紀の節目を迎えた昨年五〇周年を多くの会員と共に迎えられたことに感慨ひとしおであります。我が協会の究極の目標は、結成当初から変わらない市民皆泳であります。今後も更に研鑽に励み目標に向かって会員一同活動を続けていきたいと願うところであります。



いまや健康と楽しさを養う手段として、老若男女を問わず広く受け入れられるスポーツとなりました。このニーズに応えられるよう指導の充実に努めております。

更に高齢者のための水泳普及と障害者に対する援助が今後当協会に課せられた課題と考え既に取り組んでいるところであります。五〇周年という節目を第一歩と考え先輩各位が築いてきた誇りと伝統を継承し、なお一層市民皆泳を目指し邁進したいと決意を新たにするところであります。

# 柔道連盟

川越市柔道連盟は、昭和二十五年にスタートし、五〇年の歴史をもち、その活動状況は、青少年の健全育成を目的に少年に普及させ、底辺拡大を最大の目的とし、各種大会を開催し、参加を積極的に奨励し、大きな成果を収めている。又市柔連傘下に、個人道場一〇、クラブ道場五、中学道場一六、高校道場二五、計五六道場を数え、各道場の修業者は、六百名を数え、柔道の普及発展に、大きく貢献している。又埼玉県代表として、国民体育大会、全日本柔道選手権に、数多く出場し、優秀な成績を収めている。連盟では、毎年大会行事



として、五月の武道大会、十月の市民体育祭柔道大会を、実施すると共に、二ヶ月に一回、昇段及び進級審査会を実施、受験者は、小中学校大学生一般と、多数の参加者がある。又平成三年より毎年柔道実技指導講習会を実施し、講師に第二三回ロサンゼルス五輪八五kg銅メダリスト、全日本体重別瀬清喜先生を招待し技の研究会を開催、多数の参加者があり、好評を得、柔道の普及発展に努力している。

# ボウリング連盟

私達ボウリング連盟が協会加盟出来たのが昭和60年です。御存知の様に今から30年程前ボウリングは国土全体を大ブームで包みましたが、その衰退も早く昭和50年代に入り関係各位の努力に依り施設の後退等にもめげず少しずつ振興を目指して参りました。日本でのアマチュアボウリング組織として確固たるJBCが国体正式種目に認可されるべく努力していた時を同じく私達の連盟もスポーツボウリングをアピールするべく市体育協会への加盟を熱望し本旨を切々



と訴え待望の入会が叶いました。その後連盟は前述のJBCの下部組織として埼玉県連へ川越市支部として加盟。幸いJBCも昭和62年の沖縄国体の公開競技の翌年43回大会には正式種目に加えられました。現在私達は川越市の連盟活動としては勿論全日本ボウリング協会の下部組織として全国大会への参加に毎年数名の選手を輩出する様な活動を行っております。平成16年は第59回埼玉県体しかも会場は準フランチャイズの新狭山。何としても代表選手をと中学生中心のジュニアボウラーも視野に入れ指導にも大奮闘中です。

# スキー連盟

川越市スキー連盟は現在十一のクラブにより、連盟及び各クラブ主催の行事が実施されております。年間の行事予定としては、毎年十一月の上級者強化合宿に始まり、翌年三月の草津スキー場で行われる小中学生を対象とした、ジュニアスキーでシーズンの幕を閉じます。

一月下旬の市民スキー(蔵王)市民体育祭スキーの部(湯沢)等は平成十一年度で第五十回を数えております。また、二月に行われる県民体育大会へも選手の派遣を

本日より  
への展望

行っております。スキー場での技術指導については、川越市スキー連盟に所属する公認の指導員が、安全で楽しいスキーの指導を行っております。これらの運営は、川越市の協力を受けながら、各クラブから選出された役員の皆様の協力により実施されております。

大自然の中でのスキーは、これからも多くの人々に楽しみを与えてくれるものと思います。

歴史ある川越市スキー連盟の伝統を受け継いで、今後とも役員一同スキーの普及発展に努めていきたいと思っておりますので、皆様の参加をお待ちしております。



### ソフトテニス連盟

川越市ソフトテニス連盟は、歴史も古く創設六十五年を迎えます。



ソフトテニスは、旧軟式庭球であり、日本で生まれたスポーツとして親しまれてまいりましたが、平成五年、当競技の国際化に伴い名称も変更になりました。

また、平成八年に川越運動公園テニスコート12面もオープンし、埼玉県の各種大会も多く開催されるようになりましたが、硬式テニスもあわせ、まだコート数が十分ではない状況です。

さて、ソフトテニスの最大の魅力はというと、生涯スポーツに最適であると言えると思います。ボールがやわらかいために、ひじや肩への負担がほとんどなく、老若男女が楽しむことができます。

大会も、一般、成年の種目以外にも、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳と5歳きざみに細分化されており、親子や夫婦の大会も行われている状況です。

ますます高齢化社会を迎えます

## 加盟団体 21世紀

### 体操連盟

が、なんといっても健康で過ごすためにも、ぜひコートでさわやかな汗を流されますよう、連盟一同お待ちしております。

川越市体操連盟は、毎週土曜日午後、市民体育館で一般の方を対象に健康促進を目標にストレッチャ体操と自然運動を、ベテランの指導者のもとに行っております。参加者の方々から、「体調が良くなった」、「健康に自信がついた」等の声を聞くたびに継続することの大切さを痛感しています。この体操教室とは別に、川越市施設管理公



社からの依頼で、毎年五月〜七月の間に、週一回、合計十回、六十歳以上男女を対象に「シルバー健康体操教室」を行っておりますが、定員五十名を常にオーバーする希望者が集まり好評を博しています。

市民体育祭体操の部では、将来体操選手を目指す子どものみならず、スポーツに自信がない子どもへの向上も含めて、徒手、跳箱の採点競技を行い底辺の拡大を図っております。人前で演技をすることによって自信がついて積極性が出てきた等、父母の方から喜びの声を聞くたびに、指導者としてやりがいを感じています。私たちも随時会合と講習会を行い、指導者としての向上をはかるべく努力して参りたいと思っております。

### ソフトボール協会

スポーツ川越にPRのチャンスが廻ってきたソフトボール協会です。我が協会は、壮年層の体力増進を目的に、昭和49年に創設し早いもので、今年で丸26年が過ぎました。体協加盟団体29のうち、24番目をみても、決して歴史のある団体ではありませんが、登録メンバーの方々、年齢的にみても地域の中心的存在であるため、今では登録チーム男子147、女子15、シ

ニア13の175チーム、登録人数3、400余名を数える大世帯、もちろん、体協一と自負している。

いっとき男子登録170チームをかかえた時代からみれば、チーム数は減っている。これはスポーツの多様化に起因するものと思われるが、ソフト離れの防止策を打ち出し、チーム数減少をくい止め、ここ数年は若干、増加の傾向すら見



える。その成功の一因は、若い世代の取り込みと、生涯スポーツの一环としてのシニアの設立にある。今年も大会規定を見直し、人口増をと役員一同がんばっております。

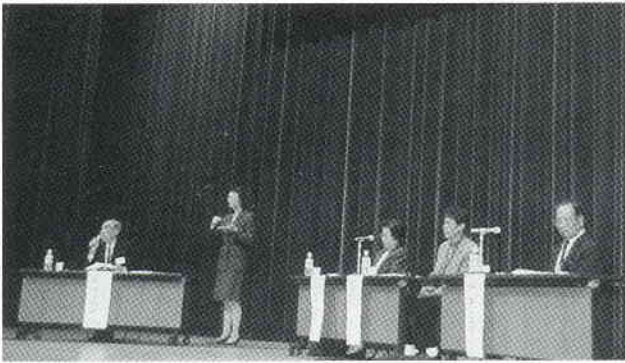
最後に一言、悩みの種は、大会前日に雨が降ると、グラウンド状態が悪く、大会が流れてしまうこと。水はけの良いグラウンドがほしい。

シンポジウム

「21世紀の豊かな  
スポーツライフの実現をめざして」

十月二十二日(日)に、やまぶき会館においてコーディネーターに川越市体育協会会長関口正鏐氏、シンポジストに須賀郁子氏、須賀憲氏、仲井正男氏を招き、「二十一世紀の豊かなスポーツライフの実現をめざして」と題し、シンポジウムが開かれました。

まず始めに、関口氏から、健康を保持・増進して行くために、バランスのとれた食事・適度な運動・ほど良い休養の三つを挙げられて



いましました。県民のアンケート結果から、栄養と休養という面は関心の高さが表れている反面、『適度な運動』については関心が低いことを指摘されていました。また、『適度な運動』はある程度継続して運動していくことが重要であり、そのためには、栄養、運動、休養のバランスのよい生活習慣を確立していくことが健康を保持・増進していくために重要だと強調されていました。

そこで、川越市生涯スポーツ振興計画を紹介し、私たちの生活が便利、快適になってきた反面、身体活動が減少し体力の減退を来す時代に入っていくであろうということとを指摘されていました。

次に、スポーツ・レクリエーション活動の充実に討議を重ねておられる第一部会の議長の仲井氏から会議の報告がありました。

仲井氏は、特に、総合型地域スポーツクラブの設置・育成に視点を当てて話されていました。

近年日常生活の中で、身体活動の機会と場を保証し、体を動かすという本源的な欲求に応えること

が、心身ともに健康な生活を営む上で重要なものという考えを示されています。

また、身近な地域で気軽にスポーツに親しみ、継続して楽しむことのできる環境作りが必要であることもつけ加えられておりました。

須賀郁子氏からは、卓球を通して、プレーヤーとして、また、指導者としての立場から、各種スポーツ教室や、スポーツ大会などの実態について報告がありました。

須賀郁子氏は、幼少の頃体が弱く、軽いスポーツをやるということと卓球を始めたそうです。そのおかげで中学、高校と皆勤賞をいただき、皆さんにも卓球を勧めようと思ひ、講習を受けて、日本体育協会のスポーツ指導者とスポーツプログラマーの資格を取られたそうです。

資格を持った人が指導に当たっているのは、主に教育委員会主催のスポーツ教室で、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加され、福祉センターでも指導を始めたそうです。

卓球は、目でボールを追いかけ、頻繁に手を動かすので平衡感覚も要求されるので、高齢者の方のリハビリにも良いそうです。また、生涯スポーツということと新しいルールも考えられていて、小さい



市民駅伝大会小学生の部 (12.12.17)

子から高齢者まで誰にでもできるスポーツとして、運動を始めたいと考えている人に、卓球を勧めたいという理由です。

最後に、須賀憲氏からは、学校開放の実態について報告がありました。

須賀憲氏は、初雁中学校の学校開放運営委員会に携わっておられます。初雁中では、学校教育の支障のない範囲で利用していますが、学校の体育館を使用していることもあり、学校との連携が欠かさなように心がけているそうです。

また、今後の開放のあり方についても述べられ、学校体育施設の開放は、校区の住民が身近にスポーツに親しむことができるため、大変意義の大きい事業であると話されています。体育館だけの開

放に限らず、校庭等の開放も進められれば学校開放は住民の多様なニーズに応えることができ、単に地域住民に場を提供する「開放型」から学校と地域社会との「共同利用型」へと移行していけるだろうという考えを示されていました。

会場にいる参加者の中からも、今後の学校施設のあり方などについて様々な意見が交わされ、関口氏からも空いている施設を、法の範囲内で効率的に使えることは大変良いことなので、早い段階でできるようなしていきたいという考えを示されていました。



スポ少新春マラソン大会 (13.1.14)

# 第五十三回市民体育祭

## ■総合開会式

九月十五日(祝)、陸上競技場を会場に、スポーツ少年団の体育祭といっしょに開催されました。二十九団体・四二四名の力強い入場行進が行われました。

大久原教育長の開会宣言、舟橋市長のあいさつの後、ホスト団体のボウリング連盟代表による選手宣誓が行われました。また、デモンストレーション種目として各団

体の特徴を表す用具をバトンとして用いたリレーが行われました。



選手宣誓

## ■市民体育祭・町内体育祭

スポーツの秋、九月から十一月にかけて、各地区で小・中学校を

会場に実施されました。

- ・実施自治会 一七三自治会
- ・会場数 二三会場
- ・参加者数 二五、二一八名



なぎなた

	参 加 者					合 計
	少年少女	青年	婦人	壮年	その他	
野 球	0	青年・壮年		300	0	300
卓 球	4	0	164	94	12	274
ソフトテニス	40	12	90	24	2	168
バレーボール	100	256	130	542	43	1,071
バスケットボール	523	597	30	24	0	1,174
サッカー	1,048	624	20	0	0	1,692
柔 道	271	90	15	49	0	425
剣 道	93	39	24	15	0	171
弓 道	40	15	33	26	11	125
空 手 道	103	49	11	9	0	172
陸 上	645	11	5	12	0	673
水 泳	936	113	72	69	6	1,196
スキ ー	10	7	7	44	4	72
ク レ ー	0	1	0	17	18	36
ラ イ フ ル	0	0	1	19	4	24
ス ケ ー ト	33	青年・壮年		6	0	39
体 操	139	0	0	0	0	139
小 体 連	910	0	0	0	0	910
中 体 連	5,218	0	0	0	0	5,218
高 体 連	2,627	0	0	0	0	2,627
レクリエーション	205	23	490	89	263	1,070
バドミントン	0	56	74	79	1	210
少 林 寺	152	50	0	0	0	202
ソフトボール	0	130	194	2,598	537	3,459
テ ニ ス	65	200	300	280	0	845
ボ ウ リ ン グ	0	27	59	42	9	137
な ぎ な た	17	0	50	5	0	72
ラ グ ビ ー	230	40	0	55	5	330
ゲ ー ト ボ ー ル	0	0	0	2	254	256
合 計	13,409		8,509		1,169	23,087

少年少女=小・中・高校生 青年=30歳未満 壮年=30~60歳 その他=61歳以上

川越運動公園テニスコートは、平成八年四月一日にオープンしました。平成十一年度利用者は、約五万九千人で、一日当たり百九十人の方がテニスを楽しんでおります。施設の概要は、テニスコート十二面(その内六面は照明設備がありナイターが可能)、壁打ちコート二面、管理棟、更衣室、ロッカー、シャワー、観客席は千三百席です。コートは全天候砂入り人工芝オムニコートで、多少の雨でもプレーを楽しむことができます。若い人から高齢者の方まで幅広い層に使用されており、「技術の向上」、「運動不足解消」を目標とし、生涯スポーツの場として市



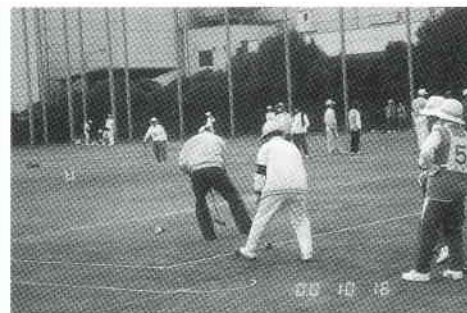
民の方に利用いただいています。  
 ・開場時間 午前九時~午後九時  
 ・休場日 毎週火曜日  
 ・使用料 一般一面二時間四百円  
 小中高校生 〆 二百円  
 詳しくは総合体育館へ  
 ☎二四一八七六五

## シリーズ 体育施設紹介 (2)

## 総合運動公園 テニスコート



ラグビー



ゲートボール

「川越市二十一世紀記念事業」の一環として行われました。九年ぶりの市街地コースを歩く「歳のまちを歩こう—小江戸ウォーキング」と命名しました。アトラクションとして、川越市鳶組合による「はしご乗り」が大会に彩りを添えました。

◆ ◆ ◆  
 ※参考 参加者平均年齢43・6歳  
 ◆ ◆ ◆

■シルバー賞受賞者  
 石川ミネさん（市内・89歳）最高年齢者 外十三名の方が受賞

年代別	男性	女性	合計
9歳以下	81人	45人	126人
10歳代	76	67	143
20歳代	12	22	34
30歳代	44	75	119
40歳代	89	118	207
50歳代	126	147	273
60歳代	133	131	264
70歳代	37	17	54
80歳代	10	4	14
合計	608	626	1234

・市内 970人  
 ・市外215人 県外49人

■申込者数 一、一三四名



■会場  
 期日 平成13年元日 PM12時21分  
 会場

・スタート=市立博物館・ゴール=本丸御殿  
 ・Aコース：約4km 「時の鐘」分岐点  
 ・Bコース：約6km

歳のまちを歩こう—小江戸ウォーキング  
 第19回川越ウォークソン大会



◆ ◆ ◆  
 今回は記念大会のため、  
 (1) A・Bの二コースは、分岐点の時点で体調に合わせて自分で選ぶ。  
 (2) 記録、(タイム、番順)は特に掲示しない。  
 (3) 参加賞はタオルマフラーとするなどしました。  
 「住みなれたまちを再発見しました」、「新世紀の幕あけを実感しました」、「ファミリーの絆を強く感じました」などの感想が寄せられました。次回は、二十回大会となります。多くの方のご参加をお待ちしています。

川越市スポーツ教室

〔一般対象種目〕

No.	教室名	開催時期	参加者	会場	
1	テニス	7月~9月	49名	運動公園テニスコート	
2	ミニテニス	9月~10月	16名	市民体育館	
3	ゴルフ	Aコース	9月~11月	15名	プロスパー
4		Bコース	9月~11月	15名	
5		Cコース	9月~11月	14名	
6		Dコース	9月~11月	15名	

〔女性対象種目〕

7	バドミントン	9月~11月	27名	市民体育館
8	ソフトテニス	9月~10月	18名	城下テニスコート
9	ボウリング	9月	16名	川越ファミリーレーン
10	スイミング	7月	39名	川越スイミングスクール

〔ジュニア対象種目〕

11	スイミング	8月	35名	中央小学校プール
12	スキー	3月	77名	草津国際スキー場

〔ジュニア・一般対象種目〕

13	卓球	5月~7月	50名	市民体育館	
14	スケート	1期	11月~12月	60名	川越水上公園
15		2期	1月	83名	川越水上公園



ジュニアスイミング教室

第8回スポーツ指導者養成講習会

第一日目	期日	11月7日(火) 午後7時~8時30分
	内容	「調整力・柔軟性のトレーニング」 (ストレッチ体操)
	講師	東洋大学 三浦 邦彦 先生
第二日目	期日	11月14日(火) 午後7時~8時30分
	内容	「筋力・筋持久力のトレーニング」 (ダンベル体操)
講師	東洋大学 穂田 清 先生	
第三日目	期日	11月20日(月) 午後7時~8時30分
	内容	「現場における救急処置」
	講師	川鶴クリニック 相原 吉雄 先生
第四日目	期日	11月28日(火) 午後7時~8時30分
	内容	「健康と食事」
	講師	女子栄養大学 石田 裕美 先生
参加者 のべ 182名		

# 体育功労者・優秀選手表彰式 スポーツ講演会

期日 平成十三年二月十一日(祝)  
会場 やまぶき会館中ホール  
体育功労者・優秀選手表彰式



舟橋市長から表彰される体育功労者

〔体育功労者〕四名 順不同  
竹内 昇氏(卓球連盟)  
小野沢寛氏(柔道連盟)  
河合幹夫氏(高等学校校体育連盟)  
栗原美恵氏(ボウリング連盟)  
〔優秀選手賞〕二二種目三一九名  
〔特別表彰〕  
飯島友美さん(川越第一中二年)  
第21回世界バトントワリング選手  
権大会(12年8月・オランダIIデ  
ンボッシュで開催) 女子ジュニア  
の部優勝

## スポーツ講演会

NHKチーフアナウンサー山下信氏をお迎えし、「すみません!」は怖くない」と題してご講演をいただきました。

昭和六十二年の春の選抜高校野球の選手宣誓で、「すみません」という声が甲子園球場に響きました。高校球児が教えてくれた「すみません」という勇氣についてお話しされました。また、福岡ダイエーホークスの王監督、選手達はどうやってここまで努力をして、V2に結びつけたのかについてもお話しされました。



山下 信氏

## 活躍する選手たち

### クレイ射撃日本選手権優勝(初)



小原誠さん(32)  
川越市通町在住  
クレイ射撃協会  
公認5段  
競技歴 6年  
県クレイ射撃協  
会所属  
—— 競技を始め  
たきっかけは。

ジュニア世界選手権出場  
平原康多さん  
(川越工業高自転車部三年)  
今年度大会成績

### 〔国内〕

関東大会 スプリント 優勝  
インターハイ スプリント 三位  
国民体育大会 スプリント 三位  
都道府県対抗自転車選手権  
スプリント 七位

### 〔国外〕

アジアジュニア自転車選手権大会  
スプリント 六位  
ジュニア世界選手権  
スプリント 二十三位

—— 競技を始めたきっかけは。  
父親が競輪選手をしていて、あこがれていたこと。それと高校に自転車部があったこと。

—— この競技の魅力は何ですか。  
個人の練習の成果がしっかりと試合で表れるところです。

—— 21世紀へ向けての抱負を。  
競輪選手になり、父親以上の成績を残したいです。

### ※競技説明

トラック競技:自転車競技場「バンク」を利用して行われる競技です。その中の一つにスプリント【短距離】があり、二百mの走行タイムで対戦相手を決め、お互いバンク一周で着順を争う競技です。

### 国体陸上競技少年共通槍投 二位



斉藤聡伸さん(城西川越高三年)  
記録 66m06(県高校新記録)

### —— 陸上競技の魅力は。

記録の善し悪しは、全て自分の練習次第で左右され、そして今までの自分を超すことを目的とするような果てなき自己への挑戦です。

### —— 国体の印象は。

やはり国体という大きな大会だけあってどの種目もハイレベルだったし、有名な顔ぶれをみるのが出来てかなり興奮した。初の国体なので緊張するかと思っただが、監督、コーチの方々のお陰で最高に楽しむことが出来ました。

### —— 将来の目標・抱負について。

大学で陸上を続けるかはわからないけれど、もし槍投をやるとしたら、今度は埼玉県記録の更新を狙っていきたいと思います。

## 編集後記

「二十一世紀の展望」号として編集しました。寄稿していただいた皆様にお礼を申し上げます。